専大スポーツ

No.284

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からログインでご確認ください
専大スポーツweb（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

テニス・全日本大学対抗王座決定試合

女子が準優勝

▲　メダルを手に、笑顔の部員たち

全日本大学対抗テニス王座決定試合が10月29日から11月2日まで、愛知県名古屋グリーンテニスクラブで行われた。専大からは女子が出場し、決勝戦で敗れたものの、準優勝を果たした。

ダブルス2試合、シングルス3試合のうち、3勝した方が勝ちとなる今大会。第3シードの専大は危なげない試合展開で、2回戦で福岡大に、続く準決勝では園田学園女子大に5―0でストレート勝ち。迎えた決勝の相手は4連覇を狙う早大。ダブルスでは相手の速い展開に苦戦し、本来のプレーができず連敗。シングルスに望みをかけ、最後まで粘りを見せたが0―5で敗れた。

松山芳主将（経営4・静岡市立高）は「負けたことは悔しいが、このチームで最後まで戦えて良かった。良いチーム、良い後輩に恵まれた」と、チームを引っ張った藤井友里（経済4・椙山女学園高）は「最後までシングルス1（チームのエース）で戦えたことを誇りに思う。名古屋に来て、楽しくプレーすることができた」と話した。（菅原　亜美・文2＝写真も）

秋季ロイヤルSCオープン

男子単で渡辺が優勝

秋季ロイヤルSCオープンが10月19日から25日まで、千葉県野田市のロイヤルSCテニスクラブで行われた。男子シングルスで渡辺輝史（商1・湘南工大附高）がノーシードからの優勝を遂げた。

初戦から決勝まですべて2―0のストレートで勝ち続け、圧倒的な強さを見せた。今後もスーパールーキーの活躍に注目だ。（菅原）

▼　先頭集団にくい込み、力走した五ヶ谷主将（中央＝撮影・原）

陸上競技・箱根駅伝予選会

7位で6年連続66回目の出場

東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）予選会が10月17日、東京・立川市の国営昭和記念公園で行われた。専大は10時間11分42秒で7位通過を果たし、6年連続66回目の箱根駅伝への切符を手に入れた。

各大学10～12人の選手が20キロを走り、上位10人の合計タイムで順位が決まる。専大では五ヶ谷宏司主将（経営4・専大松戸高）が先頭集団で各校エースと接戦を繰り広げ、59分31秒で個人総合6位と好走。その走りに続くように、五十嵐祐太（文3・荏田高）が1時間0分15秒で21位となるなど、各選手が確実に結果を残した。

五ヶ谷主将は「調子は良くなかったが、自分ができる最低限の走りができた」と語り、加藤覚監督は「今回は4年次生がしっかり走ってくれた。チームも粘りを見せてくれた」と選手たちの健闘をたたえた。（山口　高弘・商2）

全日本大学駅伝対校選手権

追い上げ及ばず14位

大学日本一を決める全日本大学駅伝対校選手権が11月1日、熱田神宮～伊勢神宮の106・8キロをコースとして行われた。全国各地の予選を勝ち抜いた強豪26チームが出場。4大会ぶり17回目の出場を果たした専大は5時間34分18秒の14位でゴールした。

1区初起用の酒井潤一（経営4・久里浜高）、2区のエース・五ヶ谷主将が17位でつなげた襷（たすき）を3区・井上直紀（商4・報徳学園高）が一つ、4区・安島慎吾（経営2・勿来工高）が二つ順位を上げ、14位で後続に望みをつなぐ。5区・星野光汰（経済1・東京実高）、7区・石垣弘志（経済4・鎌倉学園高）がともに区間9位の走りで追い上げを図ったが、及ばなかった。（植木　泰士・法2）

箱根駅伝壮行会

11／30生田アトリウムで開催

「箱根駅伝壮行会」が11月30日（月）12時30分から、生田キャンパス9号館5階アトリウムで開催、会場で応援グッズを配布します（数量限定）。箱根駅伝に臨む陸上競技部員にオール専大でエールを送ろう。

▼　団体戦準優勝を喜ぶメンバー

バドミントン・全日本学生選手権

女子団体で準優勝

女子単は田村が準優勝

全日本学生バドミントン選手権（インカレ）が10月16日から22日まで、滋賀県立体育館ほかで開催され、女子団体戦で準優勝。女子シングルスで田村千秋（文3・昭和学園高）が準優勝、井上春奈主将（商4・埼玉栄高）が5位となり、ともに全日本総合選手権（12月1～6日、東京・代々木第二体育館）の出場権を獲得した。

団体戦の決勝は法大と対戦。井上、田村がシングルスでともにストレート勝ちし、2勝を挙げたものの、その後のダブルスが振るわず、惜敗。2年連続で優勝を逃した。

田村はシングルス1回戦をシードされ、2回戦から登場。準々決勝、準決勝と接戦を制し、勝ち上がったが、決勝で日体大・佐藤に1―2で敗れた。

「大会前は調子が上がらず、不安だったが、試合をこなしていくうちにだんだんと調子が戻り、思い切りプレーすることができた。全日本総合でも自分の力を十分に発揮できるように頑張りたいと思います」と話した。（大津　智世・経営2）

準硬式野球・東都大学秋季リーグ戦

3季ぶり優勝

エース川田2冠に輝く

東都大学準硬式野球秋季リーグ戦が9月4日から10月21日まで、八王子市民球場ほかで行われ、10勝2敗の勝ち点5を挙げ、3季ぶりの優勝を決めた。

個人では、エース・川田展行（経営2・桐生第一高）が6勝0敗、防御率1・30の安定した投球で大活躍し、最優秀選手賞、最優秀投手賞の2冠を獲得。ベストナインには投手で川田、外野手で相馬一輝（経営3・秋田中央高）が選出された。

リーグの行方を左右したのは10月20日に行われた最大のライバル・中大との3回戦。専大は5回、石川竜太郎（法2・日本航空高）の犠飛で先制すると、投げては川田が3安打完封。1―0で勝利し、8月の全日本大学選手権・決勝のリベンジを果たした。

久保田真史主将（商4・太田市立商高）は「大学最後のリーグ戦を優勝という最高の形で締めくくることができてうれしい。目標の〝走る野球〟を実践することができたことがこの結果に結びついたと思う」と話した。

この結果、関東地区大学・社会人王座決定戦（10月31日～11月3日、八王子市民球場ほか）に出場。ここでも、持ち前の機動力を生かした〝つなぐ野球〟を発揮し、初戦でみずほ信託銀行（社会人3位）に14―1、準決勝で群馬大（北関東1位）に11―0で快勝。決勝は東京海上日動火災保険（社会人1位）に0―3で敗れたが、準優勝を果たした。（笠井　規史・商1＝写真も）

▲　優勝を決め、歓喜に沸く部員たち

レスリング・全日本大学グレコローマン選手権

55kg級 大谷が準優勝

74kg級 上迫、96kg級 岩間は共に3位

▲　準優勝の大谷（左）と3位の岩間

大学別対抗得点で5位

レスリングの全日本大学グレコローマン選手権が10月13、14の両日、駒沢体育館で行われ、55kg級で大谷康太（文4・向上高）が準優勝を飾った。74kg級で上迫博仁（経営4・沼津城北高）が、96kg級で岩間奨平（商3・鳥取中央育英高）が共に3位に入賞し、大学別対抗得点は5位だった。

大谷は決勝で日大の森と対戦。第1ピリオドを先取したものの、第2ピリオドは判定の難しい局面にぶつかり、結果、相手にポイントを奪われた。「あの点で試合は振り出しに戻ってしまい、大きな痛手を受けた」と振り返った。続く第3ピリオドも落とし、1―2で惜敗。「昨年も準優勝で、今年は優勝を狙っていたが、最終ピリオドでスタミナが切れてしまった。次の大会に向けて、基礎体力作りから見直していきたい」と今後の課題を明らかにした。（土屋　杏有美・文1＝写真も）